

いなづま

題字 小寺寛一

発行所 函館地方電気工事協同組合
 編集総務部
 住所 函館市日乃出町7番22号
 印刷所 畠山印刷



新装なった函館市庁舎

低価格受託のツケは?

副理事長 吉田 要

不確実、不透明の82年もあと数日を残すのみとなりました。二年続きの公共事業の横ばいと景気低迷による民間設備投資の抑制から建設関連特に電気工事業界の受託量は大巾にダウンしております。

道南地区の我々業界もその波をモロにかぶって沈滞しております。と云っても公共工事の前倒し発註の効果が多少は影響して現時点では各事業所とも稼動はしているものの、受託額の低下によって前年の繰越分を加えても完工高の前年比低下は免れない現実の様です。

函館地区は昨年までの数年間は、大手のイトーヨーカ堂・長崎屋・西武デパートの進出と地元デパートの増改築、これらに刺激されての周辺商店街の改築、函館市庁舎の新築、駅前再開発ビル等の大型工事が続々とあります。函館市管内の各自治体の工事発註もほどほどにあります。本年度に入ってからは前述工事の終了に伴い、後続の大型中型物件に乏しく道や市町村の官庁工事も昨年から予定されたものが発註されたのみで、期待の住宅関連を中心とした民間設備投資意欲も低い状態で本年はこれで終りと云った感じでさえあります。

この少なくなった工事量に函館市・渡島檜山管内で規模の差こそあれ二五〇社がひしめき、更に本州や道内の大型工事が参入し過酷な受託競争を強いられている現状です。かつて中型以上のゼネコン工事に本州大手が低価格受託をして私共は眉をひそめたのですが、現在では管外業者どころか私達の仲間うちで中型以下の工事でも激しい価格競争を行っております。20%~30%では普通で40%~45%引きが常識になっているやに聞いております。勿論施主やゼネコンの予算の組み方がシビヤになったのかも知れません、最初に大巾値引きをしたのはどちらかと云うと『鶴と卵』の警説になつてゐますが要は私達業者の姿勢の問題ではないでしょ

い な づ ま

うか。大巾な低価格を呈示されても合わぬものは断固として辞退する勇氣も必要かと思います。しかしこれを他の業者が安易に請けて了う様では発注者側のペースに陥るばかりで私達の負けです。あとは泥沼の様な果てしない低価格競争が続くのみです。

いづれ『つけ』が廻つてくるのを予感し乍らでも低価格受託をしなければ受託量確保が出来ない現実は判らねものではありませんが、少し情けない気がしませんか。低価格受託を繰り返した結果その企業の経営内容が悪化したと云うことは矢張り放漫經營の一種であろうと考へます。現に数年前より複数以上の私達の仲間が業界から脱落して行つたのを私達はこの目で見て來た筈です。

『行革』の嵐が吹き、来年度もまたゼロシーリングの噂など私達電気工事業界をとり巻く環境は本年以上にキビシクなるものと予想される訳ですが、際限のない低価格競争を続けて少ない獲物をとり合うのではなく、少ない獲物だからこそ私達の經營に最低でもみあう少しでも適正価格に近い受託をするべきであろうと考へます。

- 第一回役員会
- 五七・四・一七
- 一、慶弔報告
- (一)、(有)阿部電気商会代表者母堂ご逝去
- (二)、葛西電気商会代表者尊父ご逝去
- 二、貸付報告
- 九社 三八〇万円
- 三、各支部報告並提案事項

役員会だより

- | | |
|--|--|
| <p>西支 部II支部長ならびに総代を選出した。
東支 部II支部長ならびに総代を選出した。
北支 部II古牧温泉で支部会議を開催した。
中支 部II支部長ならびに総代を選出した。
中渡島支部II支部長、支部役員ならびに総代を選出
赤川支部II支部長ならびに総代を選出した。
福島支部II安全衛生協議会を開催し、新年度の事業計画を審議した。
八雲支部II第九回総会および支部創立十周年記念式典を挙行した。(詳細前号掲載)</p> | <p>西支 部II支部長ならびに総代を選出した。
東支 部II支部長ならびに総代を選出した。
北支 部II支部長ならびに総代を選出した。
中支 部II支部長ならびに総代を選出した。
中渡島支部II支部長、支部役員ならびに総代を選出
赤川支部II支部長ならびに総代を選出した。
福島支部II安全衛生協議会を開催し、新年度の事業計画を審議した。
八雲支部II第九回総会および支部創立十周年記念式典を挙行した。(詳細前号掲載)</p> |
|--|--|
- 第二回役員会 五七・五、二八
- 一、慶弔報告
 - (一)、ユタカ電機㈱代表者病氣入院見舞
 - (二)、上原元職員結婚祝
 - (三)、細川副理事長令室ご逝去
 - (四)、マツヤ電気代表者尊父ご逝去
 - 二、貸付報告
 - 一社 三〇万円
 - 三、各支部報告並提案事項
 - (一)、新規加入申込について審議した。
 - (二)、収支決算について審議した。
 - 四、総務委員会事項
 - (一)、税務研修会開催の報告
 - (二)、北電関連安全衛生協議会の報告
 - (三)、総代会の日程および提出議題について
 - 五、技術・教育委員会事項
 - (一)、全道電気工事技能競技大会の報告
 - (二)、転貸融資について
 - 六、事業委員会事項
 - (一)、全日電工連第三者損害賠償制度について
 - (二)、住友団体共済制度について、
 - 第三回役員会 五七・六、四
 - 一、貸付報告
 - 二社 八〇万
 - 二、総務委員会事項
 - (一)、総代会の報告について
 - (二)、役員担当業務について(詳細別掲)
 - (三)、窓口の電設業務取扱いについて
 - 三、技術・教育委員会事項
 - (一)、訓練校卒業式の日程、場所について決定
 - (二)、訓練校一年生の訓練について、入校希望者が少ないでの休講する
 - (三)、電気設備に関する技術基準を定める省令の改正について
 - (四)、年末特別融資者に対する一般転貸融資の実行について
 - 四、事務局職員の給与改訂、夏期手当について
 - 五、脱退者に対する未払金等の支払いについて
 - 六、事業委員会事項
 - (一)、北電引込線工事、計器工事の工量単価の改訂について

ついて(II)詳細別掲
 (III)引込工事工料の調査について
 四、事業委員会事項

(一)全日電工連第三者損害賠償制度について
 (二)住友団体共済制度について

第四回役員会

一、慶弔報告

(一)事務局三浦職員ご逝去
 (二)里見電気工事代表者尊父ご逝去

二、貸付報告

九社 四〇〇万円

三、各支部報告並提案事項

八雲支部 (八雲ブロック)

四、総務委員会事項

(一)安全大会を開催した。
 (二)安全協役員を改選した。
 (三)江差支部・北電と懇親会を開催した。

福島支部 (安全大会を開催した。)

五、職員の補充について

(一)職員の給与改訂、夏期手当について
 (二)安全大会について (詳細別掲)

六、組合業務遂行中の事故に対する補償制度について

(一)譲受・譲渡による加入について
 (二)岩本電気商会・岩本電気㈱ (承認)

(三)和光電気工事 (和光電気工事) (承認)

(内)長崎県組合員の水害に対する見舞金について

七、技術・教育委員会事項

(一)電気工事士試験のための特別訓練

参加者 学科 (二〇名)、実技 (二九名)
 (二)全道電気工事技能競技大会の開催について
 道工業組合のアンケートに対し、隔年に一回、開催地を道央に固定して開催を希望すると云う回答をした。

(三)技術研修会の開催 (詳細別掲)

四、工量制工事単価について
 試算の結果一点当たり六七六円になった。

六、事業委員会事項

(一)住友団体共済保険の配当金について
 加入口数一口当たり一二〇円を還元する。

(二)電気使用安全月間について
 各支部会議で主旨を説明周知する。

組合行事

4月1日	全日電工連第三者損害賠償制度調査委員会 および災害互助会に大倉理事長出席 (於東京都)	4月1日	全道電気工事技能競技大会に参加 (於訓路市) (於市訓練センター)
3日	八雲支部総会ならびに支部創立十周年記念式典 (於ホテル光洲)	3日	厚生年金基金理事会に大倉理事長出席 苦小牧協組錦戸理事長藍綾褒章受章祝賀会 に大倉理事長出席 (於苦小牧市)
7日	理事長・副理事長会議	7日	第二回役員会
全日	中支部会議	9日	東支部会議
13日	赤川支部会議	13日	赤川支部会議
15日	道工業組合役員会・委員会に大倉理事長、吉田副理事長出席	15日	会計期末監査
16日	会計期末監査	16日	道南ブロック認定事業内訓練校校長事務長
21日	全道事務長会議に大倉理事長、坂本事務局長出席 (於札幌市)	21日	第三回役員会
22日	北電関連工事安全衛生協議会に佐々木 (三)理事出席 (於北電)	22日	道工業組合厚生委員会に大倉理事長出席 会議に吉田校長、平井副校長出席
23日	総務委員会会議	23日	道工業組合役員会に大倉理事長出席 会議に吉田校長、平井副校長出席
24日	全日電工連災害互助会に大倉理事長出席 (於東京都)	24日	電波障害防止協議会総会に大倉理事長出席 (於共愛会館)
全日	西支部会議	全日	赤川支部会議
全日	税務講習会	16日	総務委員会
21日	現場代理人研修会 (於ホテルアカシヤ) (二出席者六二名)	18日	電気工事士試験 (学科) のための特別訓練
21日	出席者六二名	17日	西支部会議
27日	第一回役員会	27日	北支部会議
28日	北支部会議	28日	訓練校主任指導員会議
5月10日	定期健康診断実施 (受診者一四一名)	11日	定期健康診断実施 (受診者一四一名)
13日	中渡島支部観桜会	13日	中渡島支部観桜会
14日	訓練校第十六期生卒業式 (於組合)	14日	訓練校第十六期生卒業式 (於組合)
19日	渡島技能訓練協会総会に平井副校長出席 (於市訓練センター)	19日	渡島技能訓練協会総会に平井副校長出席 (於市訓練センター)
21日	全道電気工事技能競技大会に参加 (於訓路市)	21日	全道電気工事技能競技大会に参加 (於訓路市)
22日	江差支部会議	22日	江差支部会議
26日	東支部会議	26日	東支部会議
28日	第三十四回通常総代会 (別掲)	28日	第三十四回通常総代会 (別掲)
31日	厚生年金基金理事会に大倉理事長出席 苦小牧協組錦戸理事長藍綾褒章受章祝賀会 に大倉理事長出席 (於苦小牧市)	31日	厚生年金基金理事会に大倉理事長出席 苦小牧協組錦戸理事長藍綾褒章受章祝賀会 に大倉理事長出席 (於苦小牧市)
3日	道南ブロック認定事業内訓練校校長事務長	3日	道南ブロック認定事業内訓練校校長事務長
4日	第三回役員会	4日	第三回役員会
9日	道工業組合厚生委員会に大倉理事長出席 会議に吉田校長、平井副校長出席	9日	道工業組合厚生委員会に大倉理事長出席 会議に吉田校長、平井副校長出席
11日	東支部会議	11日	東支部会議
15日	電波障害防止協議会総会に大倉理事長出席 (於共愛会館)	15日	電波障害防止協議会総会に大倉理事長出席 (於共愛会館)
16日	総務委員会	16日	総務委員会
18日	道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理事長出席	18日	道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理事長出席
17日	西支部会議	17日	西支部会議
18日	道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理事長出席	18日	道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理事長出席
19日	中渡島支部会議	19日	中渡島支部会議
20日	事長出席	20日	事長出席

昭和57年9月30日

い　な　づ　ま

22日 北電安全推進大会に大倉理事長、佐々木(三)
理事出席
24日 北支部会議

29日 全日中央会講習会に坂本事務局長出席
建災防協会函館支部役員会に大倉理事長出席
席

通

常

總

役 員 改 選



まりました。

引きつづき

第三号議案『理事および監事の任期満了に伴なう選挙について』

昭和五十七年度の第三十四回通常総代会が、去る五月二十八日午後一時三十分より組合会議室に於いて、総代定数八十三名中六十七名（委任状出席十二名を含む）が出席して開催されました。

大倉理事長の挨拶につづき、議長に佐藤電気工事㈱佐藤征次氏、副議長に櫻山電気工業戸優氏を指名推薦により選出して議案の審議に入りました。

第一号議案『昭和五十六年度事業報告並びに決算について承認を求める件』

第二号議案『昭和五十七年度事業計画案並びに予算案について承認を求める件』

について、それぞれ理事者側並びに事務局より内容説明があり質疑応答を行なわれました。特に第二号議案については大倉理事長、担当理事から今後の運営方針について詳細に説明され、原案通り承認されました。

この中で特筆する点は、事業内訓練校の運営について、不況の影響なのか今年度の新入校希望者が僅か一名より居らず、已むを得ず一年生を休講し、二年生についてのみ訓練を実施すると云うことで承認されました。が、明年度以降何とか生徒が入校して、訓練校を継続したいと願うのであります。

又、全日電工連第三者賠償責任制度について、昭和五十四年度にこの制度が発足以来引続いて今年度も、引込線委託工事業者分の九、八四〇円について、全組合員分の掛金約二二〇万円を組合で負担することに決

款に定められた無記名連記式により、理事十五名、監事三名の投票選挙が行なわれ、新役員が選出されました。以上すべての議案審議を終り、午後四時三十分終りました。

去る五月二十八日開催された総代会で、選出された理事十五名の担当業務が次のとおり決まりました。

なお、業務の必要により、理事以外の組合員の皆さんにも、いろいろとご協力をお願いしなければなりませんので、その機にはよろしくお願ひします。

一、総務委員会
委員長 細川
委員 平沼、工藤、佐々木(請)、佐々木(三)

一、技術・教育委員会
委員長 吉田
委員 加賀、金本、平井
委員 山崎、後藤、高橋

一、事業委員会
委員長 大倉
委員 西岡、佐藤、吉浦

西支部
赤川支部
中支部
中支部
中支部
中支部

脱退者名簿

一、北斗電気㈱ (代表者井上元春)	西支部
一、石島電気㈱ (代表者石島寛)	赤川支部
一、沢谷電気商会 (代表者沢谷長太郎)	中支部
一、櫻谷電気商会 (代表者高谷清)	中支部
一、北海綜合電機㈱ (代表者岡田康一郎)	西支部
一、櫻函東電気 (代表者小熊国夫)	中支部
一、丸山電気工業 (代表者丸山健一)	中渡島支部
一、(有)伊藤電気店 (代表者伊藤務)	東支部
一、齊藤電気工業 (代表者齊藤元克)	赤川支部
一、金加電気 (代表者加藤秀夫)	赤川支部

新 役 員 紹 介



理事
平沼智子
大正九年五月生
権電工業株式会社
取締役社長



副理事長
吉田要
昭和三年八月生
函館拓北電業株式会社
代表取締役



副理事長(西支部長)
細川政明
大正六年一月生
日本電機保全株式会社
代表取締役



理事長
大倉伸夫
昭和三年五月生
大倉電氣株式会社
代表取締役

理事(江差支部長)

山崎鉄雄

大正九年六月生
共栄電氣工業株式会社
取締役社長



理事
金本慶三
大正十五年一月生
有限会社ヤマト電氣工業所
代表取締役



理事(中渡島支部長)
佐々木三男
大正十四年三月生
有限会社佐々木電氣工業所
代表取締役



理事(赤川支部長)
工藤義一
大正十三年二月生
株式会社工藤電氣商会
代表取締役



理事(福島支部長)
高橋勝英
大正十二年二月生
有限会社高橋電設工業所
取締役社長



理事(江差支部長)
西岡大成
昭和二年十二月生
有限会社西岡電氣
代表取締役



理事
佐藤征次
昭和十三年九月生
佐藤電氣工業株式会社
代表取締役



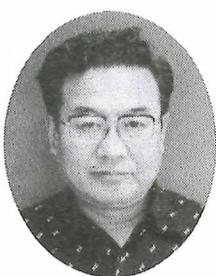
理事(北支部長)
加賀秀雄
昭和六年八月生
加賀電氣株式会社
代表取締役



理事(東支部長)
佐々木請作
昭和五年二月生
佐々木電氣商会
代表



理事(八雲支部長)
後藤又藏
昭和四年九月生
有限会社後藤電氣商会
代表取締役



理事(中支部長)
西岡大成
昭和二年十二月生
有限会社西岡電氣
代表取締役

理 事

吉浦孝悦

昭和十六年七月生
株式会社吉浦電機商会
代表取締役

監 事

香田稻生

大正八年十一月生

香田電気工事店
代表

監 事

平井行衛

大正十二年八月生

株式会社平井電気
代表取締役

瀬川電気

瀬川進

昭和十六年十一月十三日生
函館市深堀町二三一二五
電話 五三一〇二二〇昭和四十二年三月函館拓北電業㈱を経て、昭和五十
六年九月独立開業。

新加入組合員の紹介

昭和五十七年度新加入の五名の方を
ご紹介いたします。

(加入月日は昭和五十七年四月一日)

昭和四十年四月協信電気工業㈱函館支社を経て、昭
和五十六年十月独立開業。

阿部正一

昭和十九年十一月二十五日
函館市大川町一四一一
電話 四二一六〇二一

三和電気商会

奈良正

大正十三年八月二十三日生
檜山郡江差町字豊川町
一五一一四
電話(0)一三九五二一三三七六昭和十八年四月三共工業㈱、昭和二十一年五月日本
鉄道工業㈱、昭和二十九年六月北海道電力㈱、昭和三
十年十一月共栄電気工業㈱を経て、昭和五十六年十一
月独立開業。

電気企画工業

監 事
日計文雄
大正十三年六月生
日興電気株式会社
取締役社長南電設
南公一
昭和二十四年八月十二日生
函館市人見町一一一八
電話 五五一〇八〇六金子電化工業所
金子
昭和九年八月二十五日
檜山郡江差町字上野町四一
電話(0)一三九五二一〇九七二

昭和四十一年橋電気(伊達市)、昭和四十四年中屋電
氣(東京都)、昭和四十六年二月沢田電工舎を経て、
昭和五十六年九月独立開業。

電気保安功労者の表彰



(電気工事業者営業所)

香田稻生氏

電気工事安全大会

盛大に開催

『災害ゼロはみんなのねがい』

さらに進めよう職場の安全を』

昭和五十七年度の安全大会が、七月八日ホテルアカシヤを会場として組合員ほか関係者100名余が参加して開催され、工事繁忙期の災害ゼロを誓い合いました。

坂本事務局長の開会宣言に次いで、殉職者に対する黙禱のあと、大倉理事長から挨拶があり

『昨年、四人の殉職者を出したことを、われわれは深く反省しなければなりません。最近は企業自らが利益追求を第一とするため、安全管理がおろそかに

なりかねません。われわれ関係者一同、きょうの安全大会を契機として、従業員一人ひとりが人間尊重の原点にたち、自ら守る意識の啓発を図らなければなりません』

と災害防止体制の確立を訴えました。

このあと、来賓として、内山俊吉函館労働基準監督署長、佐坂昭司北海道電力㈱函館営業所長が祝辞を述べました。

昭和五十七年度の電気保安功労者として、去る八月六日札幌の自治会館で開催された第一回電気安全セミナーの中での安全委員会委員長より表彰されました。

これは、毎年電気安全について保守保安の運営並びに教育が十分行なわれて居り、他の模範として認められたもので、普段の努力の賜とお喜び申しあげます。

引き続き、金沢勉強館労働基準監督署第三方面主任監督官の『電気工事業における安全衛生管理について』と題して、災害に関する各種統計資料を参考にして約一時間にわたっての特別講演がありました。

このあと、『保護具と作業服装』と題しての映写フィルムを撮影、最後に佐々木三男安全衛生担当理事の力強い安全宣言で幕を閉じました。

なりかねません。われわれ関係者一同、きょうの安全大会を契機として、従業員一人ひとりが人間尊重の原点に立ち、自ら守る意識の啓発を図らなければなりません』

組合員の異動

II 商号・代表者・住居表示の変更

(新)

一、㈱(北)弘電社

支社長 桐田卓治

支社長 小川昭治
岩本電気商会

一、岩本電気㈱

代表者 長谷政明

和光電気工事
代表者 長谷静江

一、大倉電気工事㈱

函館市本通二丁目五五—五

一八八一—四
函館市本通町

一、㈲旭東電気工業所

函館市本通一丁目四一二二

一三三一一
函館市本通町

一、㈲工藤電気商会

函館市本通四丁目八一二四

三七九一三五
函館市本通町

一、沢井電気

函館市本通四丁目八一二四

一八八一—四
函館市本通町

一、池田電気工事㈱

函館市本通一丁目八一二四

三九三一三六
函館市本通町

組合員消息

一、九月 六日 理事長大倉伸夫殿
一、九月 一三日 マツヤ電気工業代表者松本清彦
入院

一、七月三一日 ㈲松本電気工業代表者松本清彦
殿ご母堂ご逝去

一、八月 一日 加賀電気㈱代表者加賀秀雄殿

尊父ご逝去
一、九月二〇日 第一電気工業㈱代表者駒井龜太郎殿ご尊父ご逝在

隨筆

中国を旅して

その四

平沼智子

莫高窟

いよいよ待望の莫高窟である。通訳から注意事項を聞いて案内人の後を追う。写真は厳禁。他の日本人の一団とすれ違う。注意を聞かないで写真をとり退去を命じられたのだと添乗員が話していた。

夢に見た莫高窟である。だが聞くと見るのは大違ひ。NHKの放送は誠に見事の一語につきる。美しい仏像の無限のはゝえみを湛えた表情、細部まで堪能出来る壁画、しかし、正直莫高窟に来て私は戸惑いを感じた。照明がゼロなのである。窟の中は闇である。懷中電灯を持参せよと云う事は窟の中に照明がないからの理由なのである。莫高窟に来る迄明りがゼロとは夢想だにしなかった。NHKがあれ程立派に美しく写し出したと云う事は、一キロも二キロメートルも先から電線を引き、窟の前で発電機を廻しての照明使用なのである。案内人の説明で二十六人が一せいに持つて電灯を壁に、天井に、仏像に向けて見ると云うもので、自分の好きなところを見るには自分の電灯だけで見るしかなく、光りが散漫して思うように行かない。

莫高窟を見たいと渴望していたので照明がないのががっかりはしたが、電灯の光の中で見た仏像、シッタ太子の本生図など脳裏に焼いたものがあった。窟は二千年前に出来たのだから、このエネルギーは大変なものである。日本人のバイタリティーも遠く及ばないと思う。陸つきであるが故に東西の交流があり、顔料にしろ、技術にしろ當時としては最新最高の技法であったのだろうと思はれる。

デザインも単に仏像を置く、壁画を画くとだけに止まらず、一つのテーマを持ち時代と作者の意図とわかるようなものが多い。

第四四四窟の入口の上部に、明治に来た大谷探險隊員吉川小一郎の名が書かれてあった。隊員中最年少者であった由。世界の宝庫にキズをつけると云う事は許されないとと思う。しかし、当時としては罪の意識を持つムードではなかったのである。今、同族の吾々が『貴方のお国の人々の名前です』と指さされると後めたさを感じるのは私一人でないと思う。

(中國点景)

柳園駅

早朝四時、敦煌のホテルを出る。真黒闇の沙漠の一

本道を相当のスピードである。五時すぎトイレタイムでくらやみの砂漠で用を足し、薄明の砂漠でラクダの群に遇い、柳園到着七時半、いよいよ帰途の旅である。柳園駅の待合室の壁に大きな莫高窟の故施舞とオーケストラの復元模写の壁画、反対側には飛天の模写、色彩と云い、大きさといい、精巧さといいさすが敦煌を背後に持つ駅だけの事はある。

八時五分、ウルムチ発北京行の列車はゴトンと云うふい音と共に吾々一行一十六名を乗せて動き出した。

こここの窟の南壁は觀音経の絵ときの壁画である。案内人が通訳にお経の意味を説明し、それを通訳が吾々に説明するのだがトギレトギレ、結局、私をはじめ一

行の中に觀音経を知っている人が数人居り、それは「刀尋段々壊」と云う意味だと通訳に説明、通訳が案内人に逆説と云う一幕もあつた。

第九十六窟は最大の窟である。大仏は三十三メート

ル、背を壁にくつけているのでリリーフの感じである。則天武后的顔を写したものとの事である。下から見あげると鼻の穴が妙に印象的に見える。段がついてるので上に昇り顔の正面を見る。更に上にあがって上から下を見る。伏目の大仏は何とも奇妙なものだ。

窟の頂上は三危山の裾とついている。写真はここならよいと云っていたが、専門家以外は大きすぎてカメラの対象ではない。それに一回シャッターを押すと日本円にして八千円、上手下手関係なし、パチリ八千円パチリ八千円である。莫高窟ではカメラは無用の長物であった。

第四四五窟の入口の上部に、明治に来た大谷探險隊員吉川小一郎の名が書かれてあった。隊員中最年少者であった由。世界の宝庫にキズをつけると云う事は許されないとと思う。しかし、当時としては罪の意識を持つムードではなかったのである。今、同族の吾々が『貴方のお国の人々の名前です』と指さされると後めたさを感じるのは私一人でないと思う。

ソビエト連邦



人が死ぬと布に包み砂漠に埋めた。場所はどこでも好きなところであったので、ゴビを掘りかえすと現在でも人骨が沢山出るであろうとの事である。原則として土葬であり、砂漠の土まんじゅうである。一重墓制と云つて一年を経過し「墓落ち」をしてから、又掘り出土まんじゅうの上に木を標識として立てた。これをスープ（ストーパ）と云う。卒塔婆の語源である。日干レンガ又は焼瓦に銘を刻つて墓の前に立てた。これを石碑と云う。

砂漠の墓
珍らしい事に霧が降る。近来ない事だそうだ。おかげで砂あらしには遇はずに登る事が出来た。右に左に蛇行しながら滝のような汗を流してやっと頂上に立つ。反対側の麓に三日月の形をした泉が夕闇の中に沈んで見える。降りる時一気にすべり降りた。砂に沈む感じで恐ろしかった。

泉は水が湧いていると見えて水草がゆれていた。水中の虫がいるとの事である。

霧が降らなければマスクを掛け帽子を深くかぶつて、この山の裾をグリリと廻らなければここには来られない。恵みの霧ではあつたがとてもきつゝ鳴沙山登りであった。

鳴沙山・月牙泉

狼煙台（のろし台）
のろしに燃やす燃料は狼のふんを使う。故に狼煙と書くとの事である。真黒いふんだそうで、日中草や木の煙では急を知らせるには遠く迄届かない。狼の真黒い煙は遠くからでも望める。昔は狼が沢山いたのである。

シルクロードの両側ののろし台は現在七十四基残っている。

秋迦が死んだ時、ガンジス河の川原で火葬にして骨はガンジス河に流したと伝えられている。聖なる河の理由である。

仏舍利として現在伝えられているものは宝石である。

日本の各地にも仏舍利があるが皆宝石との事である。

石の種類は中村先生から聞きもらした。

印度では位の高い人程笠を重ねてつけた。それの最高が九である。故にその人の供養塔に笠の替りとして輪をつけ最高が九輪の塔である。

中国では石塔がほとんどであるが、日本は木造で三輪をつけて定着したものである。

中国では木の部分は扇状タルキを使用するが、日本は平行タルキを使用した。

明治十九年、奈良法隆寺の五重塔を修理してこの事実が判明した。

中国の宗教

釈迦は祖先崇拜を民衆には教えたかった。あくまでも自己開眼であった。祖先崇拜は中国に仏教が入ってきてからで現在の形式に次第に変化した。

宗教とはその土地に於て生活環境を作り出したもので、年月を経て定着したものである。

西案の大慈恩寺、上海の玉仏禪寺等にも僧は居なく管理人のみである。しかし、その管理人は戒律を守り一般民衆とは違う生活規律がある。

現在、天台山に居る小数の僧は戒律を守って修業しているが衆生済度の為ではない。

三藏法師

三藏法師と云えば孫悟空の物語に出て来る高僧『玄奘三蔵』をすぐ考える。しかし、三蔵とは遊行僧の総称である。寺を持たず、一ヶ所に止まる事なく、辻の中で説法した僧の事である。

が、日本でも『大師は弘法にとられ』という諺がある通り、『三蔵は玄奘にとられ』である。日本で円光大師、伝教大師、慈覚大師の如く、中国にも何々三蔵

と云はれる人が他にも沢山あるとの事である。

(以下次号)

お詫び

前号掲載中誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。
六頁下段 東華歎迎—ひがし、かがくをむかえ



技術研修会 相ついで開催

◎技術研修会

函館電設業会との共催で、去る六月二十一日ホテルアカシヤで午後一時三〇分より開催された。

今日は現場代理人及電工長クラスを対象として行われ出席者は六十二名、左記研修項目により順次開催された。特に柳館係長の完成検査については現行の函館市の検査の実態に触れただけに大変参考になり細部に亘った説明に熱心な質問がとび、終了予定期刻の午後四時三〇分を大巾に越える盛況であった。

研修項目

(1) 現場代理人について

講師 房前 稔氏 樺電工業㈱

(2) 工事の自主検査について

講師 吉田 要氏 函館拓北電業㈱

(3) 完成検査について

講師 柳館潤郎氏 函館市都市建設部
工営課設備第一係長

◎施工管理研修会

昨年建設省の電気設備工事共通仕様書が改訂されたのに伴い、本年は「電気設備工事施工管理指針」も併せて改訂になった。昨年の共通仕様書の改訂の際も研修会を開催したのに続き、今回も北海道電業協会を通じて開発局管轄部設備課にお願いして、札幌で行われた同指針の研修会に出席できなかつた組合員の為に特に講師を派遣してもらった。

今回も函館電設業界との共催でホテルアカシヤに於いて八月二十七日午前九時三十分より午後四時三〇分まで昼食をはさんで行われた。出席人員は六十三



あかるい明日を技術でひらく

東芝電材株式会社

國魚宮漢印

040
電函館市大繩町二十一番二十號
電話函館市大繩町二十一番二十號

吟味する

松下電工株式会社

函館市昭和町三九六の一
一一五八二

工事材料・電化製品

丸晃電氣株式會社

函館市西桔梗町五八九一四九
電話四九一三一三

電設機器資材の綜合電機卸

大興電機株式会社

本社明照電函電函館市西千代代一八二二才四桔梗町九十六六七九一七福島八三一

三菱電材特約店
このうのう電設資材印

隆東電機株式会社

函館市西桔梗町五八九一〇八
電話四九一六二二一六

電設資材・機電綜合卸

進和電機株式會社

電函館市四松川町三三四一三二二六二一

明日をひらく電設資材の総合卸商社

株式会社 工三ヤ商会

函館市富岡町一丁目四一七
電話 四二二三〇一一(代表)

電氣工事材料
音響通信機器
総合商社

石垣電
函材館株式會社
營業所

支 本
社 店
060 063 040

卷之三